

琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(令和元年度(2019年度)第1四半期)

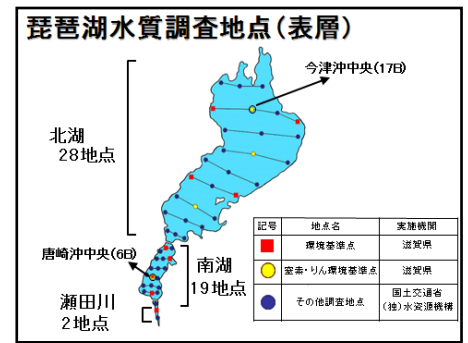
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第16条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における令和元年度第1四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖28地点、南湖19地点および瀬田川2地点の計49地点において、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

◎調査方法について

琵琶湖・瀬田川の上記49地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し、表層0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約90m地点今津沖中央(通称「17B」)、他1地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B」)において、月2回実施しています。



◎調査結果について

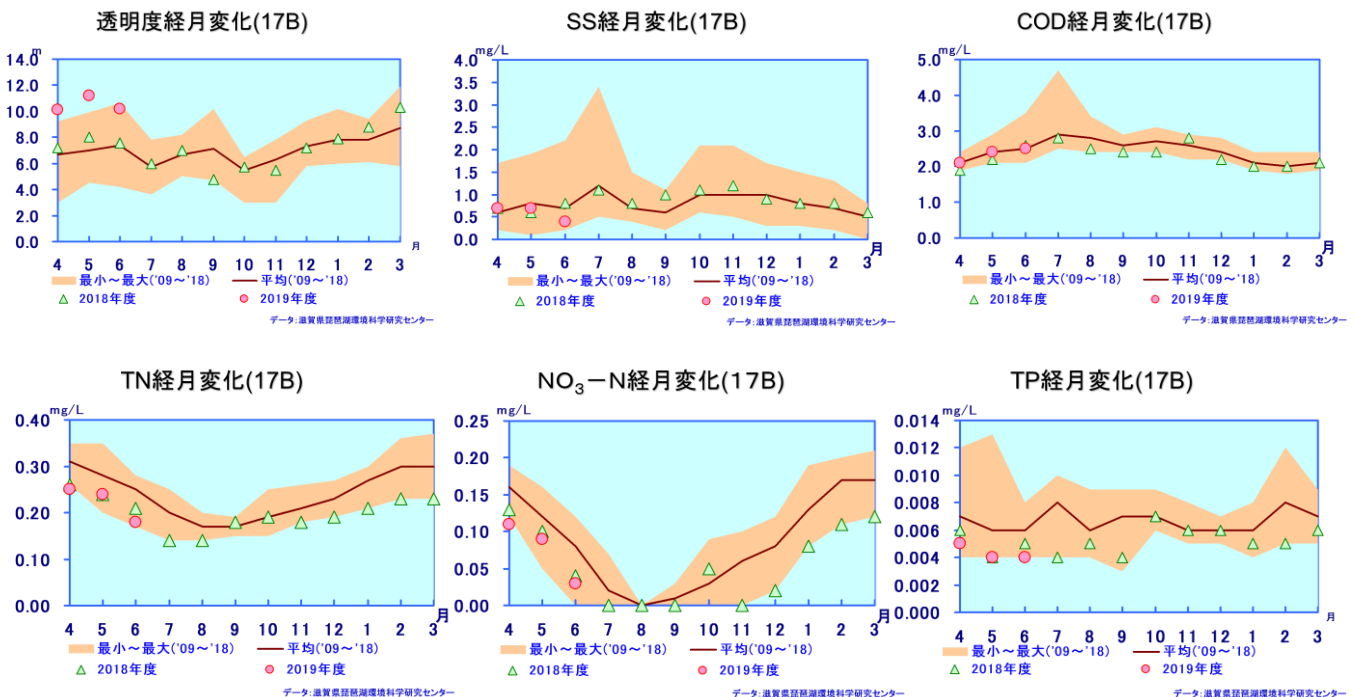
当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる令和元年度第1四半期の水質概況は次のとおりです。

○今津沖中央(17B) 調査結果

透明度については、4、5月は過年度(過去10年間)最高値を上回る値(4月:10.1 m、5月:11.2 m)で推移し、6月は過年度最高値並みの高い値となりました。透明度に関連する浮遊物質(SS)は、4、5月は過年度平均値並みに推移し、6月は過年度平均値を下回る値となりました。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)は、4~6月は過年度平均値並みで推移しました。

富栄養化項目については、全窒素(TN)が、昨年度に引き続き低い状況が続き、4、6月は過年度最低値並みとなり、5月は過年度平均値を下回る値となりました。全窒素の一部である硝酸態窒素(NO₃-N)については、4月は過年度最低値並みの値となり、5、6月は過年度平均値を下回る値で推移しました。全りん(TP)についても、4~6月は過年度平均値を下回り、5、6月は過年度最低値並みで推移しました。



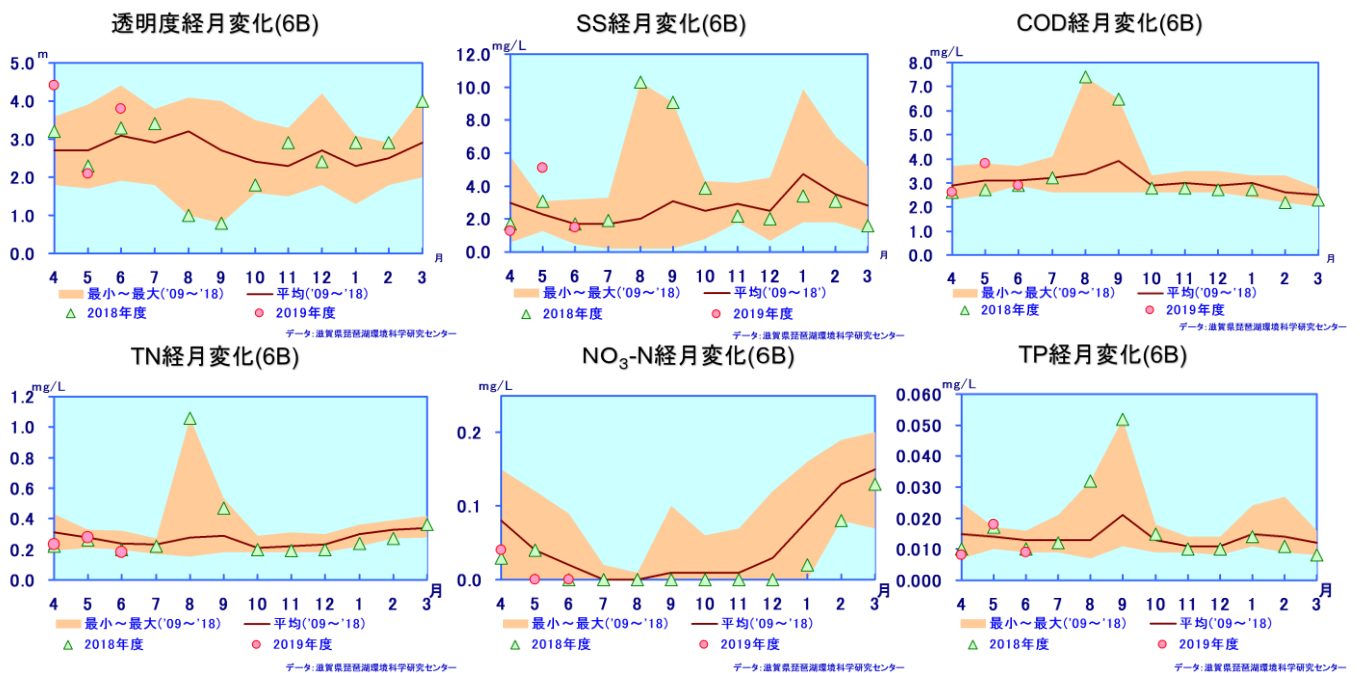
○唐崎沖中央(6B)調査結果

透明度については、4月は過年度最高値を上回る値(4.4 m)、5月は過年度平均値を下回る値、6月は過年度平均値を上回る値というように変動しました。SS についても、4月は過年度平均値を下回る値、5月は過年度最高値を上回る値(5.1 mg/L)、6月は過年度平均値並みというように変動しました。

COD については、4月は過年度平均値を下回る値、5月は過年度最高値並みの値、6月は過年度最低値並みの値で推移しました。

全窒素(TN)については、4月は過年度最低値並み、5月は過年度平均値並みの値、6月は過年度最低値を下回る値(0.18 mg/L)となりました。硝酸態窒素(NO₃-N)については、4月は過年度平均値を下回る値となり、5、6月は枯渇した状態となっています。

全りん(TP)については、4、6月は過年度最低値並みの値となり、5月は過年度最高値を上回る値(0.018 mg/L)となりました。



《問い合わせ先》 〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター環境監視部門 公共用水域係

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: de51400@pref.shiga.lg.jp